

本事例の基礎データ

カテゴリ	情報モラルを育成する指導方法		
学校種	中学校	事例提供者	東村山市立東村山第四中学校
学年	3年生	教科等	特別の教科 道徳
単元名	タブレットを使うときの情報モラルについて考えよう 【C10 遵法精神、公德心】		
主な ICT 機器	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット PC（キーボード付き Chrome OS 機／一人1台） ・モニター（電子黒板） 		
授業の概要	情報モラルについて理解し、場面ごとに情報モラルを意識して、相手に配慮したタブレット PC の使い方について考え、自らの生活に生かそうとする態度を養う。		
「情報活用能力 #東京モデル」の位置付け	情報モラル・情報セキュリティ	STEP 4	<ul style="list-style-type: none"> ・情報に関する個人の権利と重要性を踏まえ、適切に行動しようとする ・情報や情報技術をよりよい生活に生かそうとする

本事例における教育の情報化について

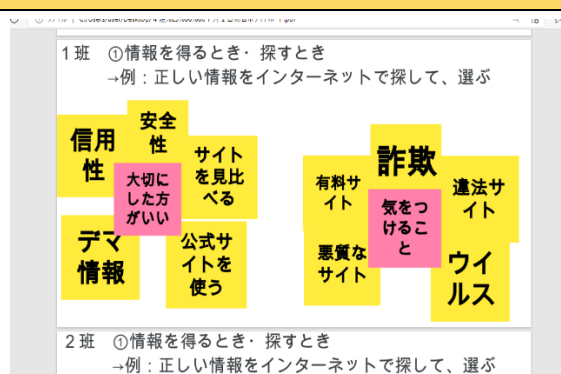
【ポイント1】	<p>Jamboard での共有・共同編集機能の活用</p> <p>情報モラルを意識することが必要な場面を想定し、グループごとに意見を出し合う活動を行った。複数で考えを共有したり、共同編集したりすることができる。さらに、クラス全体で共有することも瞬時に行うことができる。</p>
【ポイント2】	<p>大型モニターの活用</p> <p>生徒は、各学級のモニターを使って資料を提示しながら発表することに慣れている。グループの代表の発表や教師による全体共有などで有効活用している。生徒が紙に書いた内容もその場で撮影して映すことで、情報の共有がスムーズに行える。</p>
【ポイント3】	<p>紙媒体との使い分け</p> <p>個人のまとめとして情報モラル「心がけ3か条」を書いて作成した。道徳のワークシートとして毎週開くノートやファイルに貼って日常生活の中で見られるように工夫している。</p>

本時の流れ

段階	●主な学習活動・生徒の活動	○支援・留意点 ☆評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ●ICT 機器の発達により創造されるこれからの社会について理解する。 ●Society 5.0 を想定した動画（90 秒間）を視聴する。 ●本時の目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業前にタブレット端末を配布し、ログイン状態にさせる。 ○これからの社会を生きる生徒たちは ICT 機器を上手に使える必要があることを確認する。
タブレット端末を使うときの情報モラルについて考えよう		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ●タブレット端末を使ってできることを考える。 ●情報モラルの必要性について考察する。 ●誰もが気持ち良く使うために大切なこと、気を付けた方がよいことを考える。 ・個人（5分）→グループ（7分）→全体共有（15分） 【考える場面】 タブレット端末をみんなで使って学習する。 【考える視点】 ①情報を得る・探すとき ②自分の考えを表現して、インターネット上など多くの人に発信するとき ③写真を使って考えをまとめて、発信するとき ④多くの人と交流するとき ⑤共有の情報を使うとき 	<ul style="list-style-type: none"> ○発表された付せんをいくつかピックアップして、共有する。 予想される考え： <ul style="list-style-type: none"> ・情報を探す。・得た情報を活用する。 ・自分の考えを表現、発信する。 ・多くの人と交流する。 ・共有の情報を使う。 ○活動の説明を行う。 グループ（4人/全10班）ごとに担当の【考える視点】を割り当てる。 ○担当した視点について個人で意見を考え、グループの Jamboard に付せん（黄色）で投稿させる。 ○グループで、似た意見の付せんを近くにしたり、見出しを付けたりしてまとめていく。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ●本時を振り返り、誰もが気持ち良く使うための「心がけ3か条」を考える。 ●個人でワークシートに記入する。 ●グループの中で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時を振り返り、ワークシートに5分間で記入させる。 ○「～に使おう」「～に気を付けよう」など表現の例を提示する。思いつかない生徒は1～2か条でもよいとする。 ☆情報に関する個人の権利と重要性を踏まえ、適切に行動しようとする。 ☆情報や情報技術をよりよい生活に生かそうとする。 【主体的に学習に取り組む態度】

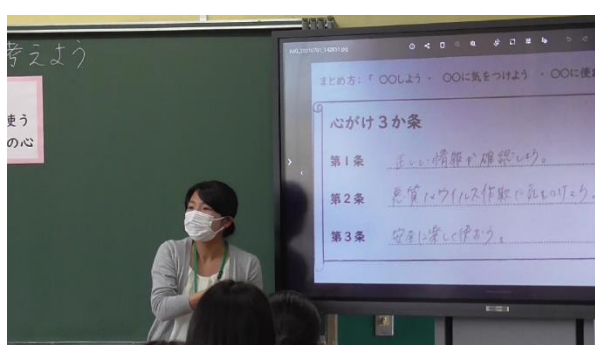
授業の実際

【ポイント1】 ● ジャムボードでの共有・共同編集機能の活用



情報モラルを考えることが必要な場面を想定し、グループごとに意見を出し合う活動を行った。複数で共有することができ、共同編集ができる上に、全体での共有も他のボードにスライドすればスムーズに行うことができる。

【ポイント2】 ● 大型モニターの活用



生徒は各学級のモニターを使って資料を提示しながら発表することになっている。グループの代表の発表や教師による全体共有で有効活用している。生徒が紙に書いた内容もその場で撮影して映すことで共有がスムーズに行える。

【ポイント3】 ● 紙媒体との使い分け



生徒は個人のまとめとして情報モラル「心がけ3か条」を書いて作成した。道徳のワークシートとして毎週開くノートやファイルに貼って日常生活の中で見られるようになっている。

今後に向けて

● 生徒が使い慣れた頃に情報モラルについての確認・指導を継続する

自他の情報モラルについて振り返る授業を設定し、今後の生活に生かしたり、日常生活をより良くしようとする態度を養ったりする。

● 各教科で積極的にタブレット端末を活用した授業を行う

実生活の中で情報モラルについて意識させるために、普段の授業で生徒がタブレット端末に触れる機会を増やし、レポートにまとめたり発表したりする学習活動に取り組んでいく。